

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和2年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	金沢大学	整 理 番 号	1 9 0 8
プログラム名 称	ナノ精密医学・理工学 卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	大竹 茂樹	プログラムコーディネーター	華山 力成
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的には学長のリーダーシップの下で着実に進行しており、「検証可能かつ明確な目標」の達成状況も良好であり、必要な機器の導入も実施されている。 ・本プログラムにおいて必修としている科目のうち、プログラム基盤課程が開講され、着実にスタートしている。 ・プログラム学生全員に対して授業料免除に加えて経済的支援が行われており、充実した内容となっている。 ・プログラム学生の意欲と満足度は高く、優秀な学生が本プログラムを履修している印象である。 ・理学・工学系と医学・薬学系の学生が偏りの少ない形で入学しており、双方の課程の標準修業年限の差異に配慮したカリキュラムが組まれている。 ・留学やインターンシップについては、当初より令和3年度以降に実施する計画となっており、当面は計画通り実施する予定としつつ、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンライン等の疑似的な留学も含めて方策を検討している。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長のリーダーシップの下で「YAMAZAKI プラン 2020」をベースに大学院教育改革が着実に進められている印象である。 ・QE を大学院学則として制度化し、本プログラムに限らず全学的に実施可能としている。 ・大学院奨学制度を一元化し、補助期間終了後も学生への経済的支援が継続できる基盤整備を行っている。 ・本プログラム開始以前より、北京師範大学等とのダブルディグリープログラムや千葉大学、長崎大学等との共同教育課程の実施等、国内外の大学との教育連携が積極的に進められている。 ・申請時に説明があった、本プログラムの融合へのプロセスを大学院全体に波及させる道筋について、今後具体的な取組を期待したい。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の補助金の逡減や補助期間終了後のプログラム継続や学生の経済的支援のために計画している間接経費の運用や全学的クラウドファンディングの活用を確実に進めていくことが期待される。 ・システム改革等については学長のリーダーシップによるところが大きいため、学長が交代しても継続性が担保できるよう、必要な制度化等の配慮が望まれる。 ・プログラム基盤課程のそれぞれの科目が、学生の将来のキャリア形成にどのように結び付いていくのかということが学生に理解できるよう発信してほしい。 ・プログラム基盤課程で教えられる内容は、その科目の入口部分に限られているので、特にイノベーション・マネジメント論や数理データサイエンス論など、興味を持った 			

学生が更に学修できるよう、内容の一層の充実と体系化を図ることが望まれる。

- 学生の将来の多様なキャリアパスを学生が理解しやすい形で示されているとなお良い。企業との連携については、より有機的に教育プログラムに取り入れ、学生の出口に結び付けられるような工夫が望まれる。
- 面談した学生のほとんどが所属する研究科の指導教員の勧めで応募しており、優秀な学生の確保や、研究科教員との連携の点では評価できるが、学部生も含め学内において本プログラムの一層の周知や学部生、社会への周知など、更に広報を充実していただきたい。